

## 教育実習へのフレンドシップ事業の位置付け\*

—— 体験実習を通して ——

近藤祥子\*\*・神永直美\*\*・山路純子\*\*・吉澤 勲\*\*\*

(1999年4月30日受理)

### Positioning Friendship Tasks in Teacher Training - Through Experience Learning

Shoko KONDOU, Naomi KAMINAGA, Junko YAMAJI and Isao YOSHIKAWA

キーワード：教育本実習 体験実習 観察実習 フレンドシップ事業

平成8年度から幼稚園における教育実習が開講され、3年が経過した。平成10年度フレンドシップ事業の一部を教育実習に組み込み、体験実習として、遠足、宿泊保育に参加するという試みを行った。本研究は、教育実習へのフレンドシップ事業の位置付け、すなわち、教育実習事前指導、観察実習、本実習のなかでこの事業がどのように活用され、またどのような成果が得られたかについて報告する。

### I はじめに

茨城大学教育学部は幼稚園教員養成課程を設置していない。しかし、小学校の教員免許を取得するための教育実習の単位が満たされれば、幼稚園での実習の履修がなくとも、幼稚園教員免許状は取得可能である。一方、附属校としての果たすべき役割の中には教育実習生の養成機関であることが位置付けられており、かつ、幼稚園教員免許状取得希望者が年々増えてきていること等から学部との協議にもとづいて平成8年度より教育実習が開講される運びとなった。

実習基準、内容等の検討がなされ、この2年間は大学における幼児教育の専門分野の講義を受けたことがない学生に、幼児教育を理解してもらうために、どのように事前指導をしていけばよいかの検討がなされた。幼児教育に関心はあるものの、実際に幼児に接することは初めてという学生もあり、不安感をもったり戸惑ったりあるいは実習に対して消極的になるという実態がみられた。

\* 本論文の一部は茨城教育実践学会第6回大会(1998.7)において著者の一人神永によって発表された。

\*\* 茨城大学教育学部附属幼稚園 (〒310-0011 水戸市三の丸2-6-8)

\*\*\* 茨城大学教育学部理科教育講座 (〒310-8512 水戸市文京2-1-1)

ここで、平成9年度には大学のフレンドシップ事業が出された。この基本的目的は、1. 教育学部生に対し、児童・生徒と直接ふれあい、共に学ぶ場を経験するチャンスを提供し、将来の教師としての実践的指導力の基礎の育成を図る、2. 教育実習以外に体験学習の機会を積極的に設定し、実践的指導力育成を目指す教職カリキュラムの充実や、教職専門科目の内容・方法の改善に資するとなっている<sup>1)</sup>。すでにこれらのフレンドシップ事業を受けて、平成9年度には宿泊保育に活用した例の一部を報告した<sup>2)</sup>。本研究では、平成10年度に新たに組み込んだ体験実習と10年度実施の宿泊保育を含めて報告する。

## II 体験実習の例

表1 教育実習履修基準要項

表1は10年度、体験実習を組み込んだ履修基準要項を示す。平成9年度までは、10月に観察実習を3日間、2月に本実習を12日間行っていたが、表に示されるように10年度は観察実習に入る前に、体験実習として春の遠足(1日)を加え宿泊保育(2日)と合わせて計3日間を設定した。これらが教育実習に対するどのような位置付けになっているかを以下に詳述する。

### II-1 遠足への参加による体験実習

春の遠足では、年少組(酒沼自然公園)と年長組(大洗水族館)に分かれて実施するために一般のボランティア学生と実習生の協力を得て行った。実施する前に打ち合わせの日を設けて、学年ごとにその時期の幼児の姿・遠足の日程・幼児へのかかわり方等を指導し当日に備えた。年長組はグループ

1998.4.30

**教育実習(幼稚園)の実施について**

○授業科目名: 幼児教育実地研究

1. 対象、受け入れ実習生の数
  - ・対象学生・・・教育学部3年次生(4年次可、但し平成9年度のみ)
  - (幼稚園一種免許状希望者が望ましい)
  - ・実習生の数・・・上限を10名とする。
2. 実習期間、形態、単位
  - ・実習期間・・・3週間。内訳=「観察実習」1週間分と「本実習」2週間分。
  - ・形態・・・観察実習を本実習の前に分離して行う。
  - ・単位・・・5単位(「事前事後指導」の1単位を含む。)
3. 実施時期
  - ・観察実習(3日) 1998年(平成10年)10月1日(木)～10月3日(土)
  - ・体験実習(フレンドシップ事業と提携)
    - ・(2日) 1998年(平成10年)5月11日(月) (5月20日(水))春の遠足
    - 9月18日(金)～9月19日(土) 宿泊保育(1泊2日)
    - \*体験実習は観察実習2日分とする。
  - ・本実習(12日) 1999年(平成11年)2月12日(金)～2月26日(金)
4. 履修要件
  - 1) 別途定める「履修基準」を満たす単位を取得していること。
  - 2) 「初等音楽科内容研究」(「小学課程音楽」及び「ソルフェージュ1」または「初等音楽科内容研究」を累加して単位を取得(履修見込を含む)していること
5. 「事前指導」の実施時期 (フレンドシップ事業と提携)
 

	日 時	内 容	担 当
1	5月7日(木) 15:00～18:00	幼稚園教育の概要について(総論)	山 路
2	5月11日(月) 14:30～17:30	幼稚園教育のあり方について	山 路
3	9月17日(木) 11:00～12:00 13:00～15:00	教育課程・指導計画について	多 田
4	(9月18日(金)) 21:30～23:00 9月19日(土) 11:00～12:30	幼児理解について	多 田
5	2月3日(水) 14:00～17:00	実習の心得	近 藤
6. 配布物
  - 「幼稚園教育実習の手引書」及び「幼稚園教育実習履修簿」(後日、事前指導までに配布)
7. 履修上の注意
  - 小学校の教員免許を取得するための教育実習の単位が満たされれば、幼稚園での実習(「幼児教育実地研究」)の履修がなくとも、幼稚園教諭の免許状は取得可能である。
  - 4年次での履修の場合は、履修年度内の単位の取得はできない。
  - \*学生面接(7月8日予定)は除く。

毎に分かれて大洗のサンフラワー号と水族館の中を見学し、実習生には継続して幼児を観察できるように責任をもって担当学級のグループを見るようにした（写真1）。

実習生の感想例は以下のようであった。

・6人もの園児を一人で面倒見るといふ事は初めての事でいろいろと戸惑うこともあり園児を見るということがどれほど大変かということに身にしみて感じさせられました。(A実習生)

・大洗遠足に行った感想として、幼稚園生はとても元気が良かったと思います。それぞれの個性が出ていてなかなか1つのグループで行動してくれなくてとても大変でした。(B実習生)

・朝グループに立った時、何をしたらいいのか分からなかった。子どもたちは誰一人としてついてこようとはせず、口で言っただけでは行動に移すことができないことがある。(C実習生)

・今日は遠足に引率し、子どもたちに初めて触れたわけであるが、大人の気付かない関心を持ち、それと同時に子どもなりにちゃんと意見をもって行動していると実感した。(D実習生)



写真1 大洗水族館の見学

上記の感想例に見られるように初めて幼児に接する事で、戸惑ったり何をしてよいか分からなかったり、1日があっという間に過ぎてしまったというのが実感だったようである。しかし遠足を通して自然な形で幼児と接している姿はとても楽しそうであった。さらに、実習生が初めての体験実習を通して以前と比べてどのように幼児の見方が変わったか等に視点を置き、体験実習についてのアンケートをとることで実態を捉える事にした。以下にそのアンケートに対する結果を示す。

一 体験実習についてのアンケート結果一

実習生10名中回答者数9名

1. 今までに幼児と触れ合う機会がありましたか。  
あつた 5名 (中3の時の家庭科の授業、幼稚園のボランティア、親戚の子ども)  
なかつた 4名
2. 今までに幼児を対象としたボランティア等に参加した事がありますか。  
ある 2名  
ない 7名

3. 幼児に対してどんなイメージをもっていましたか。  
素直, 可愛い, 元気, 純粋, わがまま, 人なつこい, 思うがままに行動する  
鋭い目をもっている, 一つの事に夢中になりやすい, 無邪気
4. 体験実習を通してイメージや見方が変わりましたか。  
変わった 8名  
変わらない 1名
5. どのように変わりましたか。
  - ・うそやごまかしは通じない。納得できるように説明しないとだめな事に気付いた。
  - ・思っていたよりもいろいろと考えて行動に移していた。
  - ・自分の考えをもっている子が多い。
  - ・個性がはっきりしている。
  - ・子ども同士にルールがある。
  - ・一人一人の反応が違い個人差がある
  - ・思ったよりもしっかりしている。
  - ・全体をまとめる事は大変。
6. 次回の体験実習(宿泊保育)にはどのように参加してみたいと思いますか。
  - ・お姉さん先生としてではなく先生として接したい。
  - ・楽しく遊びたい。
  - ・一緒になって遊んでしまうのではなく, 子どもを一人の人間として観察し, 子どもから学ぶ気持ちで冷静な目をもち参加したい。
  - ・子どもの一日の様子, 触れ合いを観察したい。
  - ・一人一人の子どもを見てかかわっていききたい。
  - ・しっかり褒め叱っていききたい。
  - ・子ども同士のかかわりを生かしながら自分も参加したい。
  - ・面倒を見るという意識ではなく, 子どものいいところを引き出せるようにしたい。
  - ・宿泊保育を通し一緒に生活する中で学んでいきたい。
7. 教育実習前にこのような体験実習があった事は, あなたにとってどのような意味がありましたか。また, これからの実習にどのように生かしていきたいと思いますか。
  - ・一人で複数の子どもを見る大変さが分かった。実習前にもっと視野を広げたい。
  - ・非常に良い体験ができた。少しだけ子どもの実態が分かりかけてきた。心で何かを感じられるように目標をもち実習したい。
  - ・子どもへの対応が少しだけ分かった。普段の生活を知った上で実習に臨みたい。
  - ・子どもに接する機会がないのでどのような事に注意して接したら良いか考えるきっかけにしたい。
  - ・事前に子どもと触れ合う事で実習前の不安が解消された。
  - ・実習前にこのような機会があり心構えが違ってくる。目標をもちやすい。
  - ・子どもの特徴, かかわり方に対する自分の考えがもてた。
  - ・実習に対しての心構えがもてた。体験実習で学んだ事を心に置いて実習に臨みたい。

- ・先生の大変さを感じた。大変さの中にも教師の喜び、楽しみを見つきたい。

以上のアンケートの結果から、幼児と触れ合う機会は初めてということもあり、ほとんどの学生が今まで抱いていた幼児に対するイメージや見方が変わったと答えている。このことは、ただ可愛い、無邪気というように幼児に対して漠然ともっていたイメージが、実際にグループを担当してかかった事で、幼児の内面的な部分に目を向けることができるように変化したことを示している。今回の体験実習の反省をもとに「一緒になって遊んでしまうのではなく、一人の人間として観察したり子どもから学ぶ気持ちで接したい。」というように、次回には、新たにこんなかわりをしてみようという前向きな姿勢への変化が見られた。実習に入る前に体験的に学ぶ機会がもてた事はよかったという意見が多かったことから、実際に自然な形で幼児に触れたことでその時期の姿と実態を捉えることができ、さらに遠足後の事前指導との抱き合わせにより、理論と結びつけて考えることが可能になったものと考えられる。

## II-2 宿泊保育への参加による体験実習

宿泊保育についてのスケジュール等については平成9年度の例とほぼ同様であり、詳しくは前報に示した<sup>2)</sup>。ここでは10年度実施のあらましと、参加した実習生たちの感想の様子から推定される効果について考察する。

2回目の体験実習は、9月の宿泊保育への参加だった(写真2)。遠足と同様事前の打ち合わせを行った。山方町にある「家和楽青少年の家」に場所を移しての活動であり、寝食を共にする中で普段の保育の中では見せない幼児の新たな一面の発見や出会いがあった。計画されたタイムスケジュールに沿って活動する中では、友達と協力しあいながら心豊かな経験ができるように背後から支えていくことが教師にとって必要なかわりであり、実習生にも当然それが要求された。春の遠足と同様、担当のグループに位置付くことによって少人数の幼児と集団としての全体へのかかわりを学ぶ場になったと考えられる。

宿泊1日目には、幼児が寝静まった午後10時頃からその日の反省会と事前指導「幼児理解について」の講話が開かれた。ここでは、以下のような反省が出た。

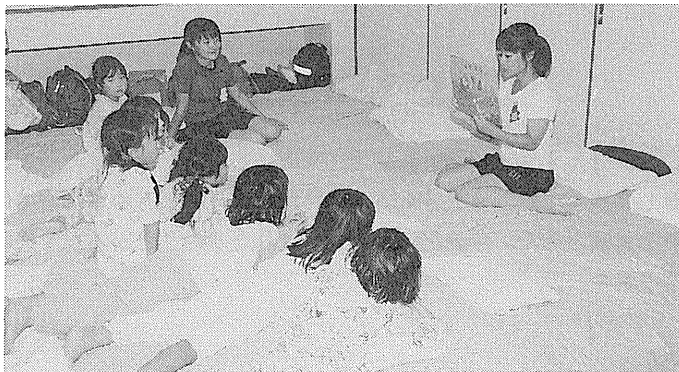


写真2 宿泊保育への参加

- ・男の子に「だめだよ」と言ってもあまり聞き入れてくれず、いらいらしてしまったこともありました。その時にもっとわかってもらえるように話してあげればよかったと思いました。(A実習生)
- ・ただ頭で学ぶだけではなく、実際に子どもに触れてみると本当にいろいろなことが分かり、そして分からないこともたくさん出てくるように思う。宿泊保育ではどのように対応していいか分からない場面が多かった。反省会の中でそのことがはっきりした。(B実習生)
- ・子どもと過ごした上で講話を受けて思ったことは、子どものそれぞれの性格・個人差・行動を踏まえて、教師は先を見通す力を養っておくことが必要だと感じました。(C実習生)
- ・子どもは一人一人個性をもっている。その個性を押えつけないで伸ばしていきながら、かつ、他の人のことも考えられるように園児たちと接していきたい。(D実習生)
- ・グループで並ぶ時、自己主張の強い子が私の手を離さず、その後ろでぐっとこらえている子がいてその子にどう声をかけようと思い、「我慢できたんだね」と言ってあげた。(E実習生)
- ・それぞれの子どもに合った対応をするためにも幼児理解は大切だと思った。(F実習生)
- ・実際に子どもたちとかかわりながら行動してみると、こういう時にはどうしよう、そして、こんな時はこういう思いかなというように、話を聞いたり本を読んで勉強したことが体験を通して実感できました。子ども同士の言い合いや話し合いを見ていると、この子はこういう一面があるんだなと良い面を発見できたのがとてもいい勉強になりました。(G実習生)
- ・先生方を見ていて、カレーライスをきちんと準備して、すぐに子どもたちが食べられるようにしたり、夜中にトイレに行く子を手前に寝かせたりというように常に先のことを考えて行動していることがよく分かりました。しかし、自分はなかなか先のことが考えられずに先頭に誰もいなかったり、グループでの行動をばらばらにさせたり反省することがたくさんあった。(H実習生)

宿泊保育に参加することを通して、実際に幼児に触れることでいろいろなことが分かったり、反対に分らないことが増えたり、対応に困ったというように、迷いや疑問に思うことが反省会で話し合われ解決することができたようだ。また、話に聞いたり本で読んだことが、実際と結びついた教師として先を見通しながら行動することの大切さに気付くこともできた。幼児理解はもちろんのこと教師としてのかかわりの重要性を、体験を通して学ぶよい機会になったことは言うまでもない。

### Ⅲ 観察実習から本実習へ

表2に示すように、5月と9月の体験実習後の10月の観察実習では、主に幼児の発達の姿や教師のかかわり方に注目して観察記録させ、さらに表3に示すように2月の本実習では、指導案を立て部分実習、一日実習を体験させた。体験実習で幼児に触れ合ったことが実習を進めていく中で生かされていくよう計画された。

表2 平成10年度 体験実習・観察実習指導計画表

平成10年度教育実習指導計画				
茨城大学教育学部附属幼稚園				
月 日	行 事	実 習 内 容	日 直	指 導 事 項
平成10年 5月11日(月)	遠足(大洗)	体験実習 ・遠足に参加しながら子どもの姿を観察したり補助をする(全体の子どもの様子、グループの子どもの発達の姿)	近 藤	本日の保育についての反省会(行事の中での個に応じた指導のあり方、子どもの発達の姿について)
9月18日(金)	宿泊保育	体験実習 ・宿泊学習に参加しながら子どもの姿を観察したり補助をする(全体の子どもの様子、グループの子どもの発達の姿)	木 村	本日の保育についての反省会(行事の中での個に応じた指導のあり方、子どもの発達の姿について)
9月19日(土)	宿泊保育	体験実習 ・宿泊学習に参加しながら子どもの姿を観察したり補助をする(全体の子どもの様子、グループの子どもの発達の姿)	大 原	本日の保育についての反省会(行事の中での個に応じた指導のあり方、子どもの発達の姿について)
10月1日(木)	教育実習開始 教育実習開始式 8:10~8:30 対面式 9:10~9:30 運動会予行演習	観察実習 ・予行演習に参加しながら子どもの姿を観察する(全体の子どもの様子、クラスの子どもの発達の姿)	神 永	教育実習初インテーク 教育実習生活時程について 教育実習仕事内容について 観察記録の方法について
10月2日(金)		観察実習 ・一人の幼児に注目して観察記録する	多 田	履修簿の書き方について 本日の保育についての反省会(一人の幼児に注目して観察記録したこと) 運動会の準備・環境設定について
10月3日(土)	運動会	観察実習 ・運動会に参加しながら子どもの姿を観察する ・教師に注目して観察する(行事の中での個に応じた指導のあり方)	近 藤	本日の保育についての反省会(行事の中での個に応じた指導のあり方) 翌日の準備・環境設定について 履修簿のまとめ方・提出日について

表3 平成10年度 本実習指導計画表 (次ページに続く)

平成10年度 教育実習指導計画				
茨城大学教育学部附属幼稚園				
月 日	行 事	実 習 内 容	日 直	指 導 事 項
平成11年 2月12日(金)	本実習開始 本実習開始式 8:10~8:30 開始式 9:10~9:30 アッセンブリー	部分実習 ・担任と一緒に保育の補助をする	近 藤	部分実習について 教育実習生活時程について 教育実習仕事内容について 履修簿の書き方について 本日の保育について反省会 翌日の準備・環境設定
2月15日(月)	アッセンブリー	部分実習 ・担任と一緒に保育の補助をする	大 原	履修簿の書き方について 本日の保育についての反省 翌日の準備・環境設定・教材研究について
2月16日(火)	全クラス弁当	部分実習 ・好きな遊び・一斉活動、降園の時間を分担し合って部分実習を行う	木 村	本日の保育についての反省会(部分実習について) 指導案の書き方  翌日の準備・環境設定・教材研究について
2月17日(水)	幼稚園弁当	部分実習 ・担任と一緒に保育の補助をする	神 永	本日の保育についての反省会  翌日の準備・環境設定・教材研究について
2月18日(木)	全クラス弁当 交通公園遠足(年長)	部分実習 ・好きな遊び・一斉活動、降園の時間を分担し合って部分実習を行う	近 藤	本日の保育についての反省会 翌日の準備・環境設定・教材研究について 指導案の書き方
2月19日(金)	附小一日入学 アッセンブリー	部分実習 ・好きな遊び・一斉活動、降園の時間を分担し合って部分実習を行う	大 原	本日の保育についての反省会(部分実習について) 翌日の準備・環境設定・教材研究について 指導案の書き方
2月20日(土)	ふれあいサタデー	一日実習 ・担任と一緒に保育の補助をする	木 村	本日の保育についての反省会 翌日の準備・環境設定・教材研究について 指導案の書き方



2月22日(月)	アッセンブリー	一日実習 ・登園・好きな遊び・一斉活動までを実習する	神永	本日の保育についての反省会 翌日の準備・環境設定・教材研究について 指導案の書き方 斉研の準備
2月23日(火)	全クラス弁当 斉研	斉研 ・斉研を行う実習生以外は、観察記録する ・保育終了後全員で反省会をする	近藤	一斉研究保育反省会 ・本日の保育についての反省 斉研担当者より 観察者より 担当教官より
2月24日(水)	全クラス弁当	一日実習 ・登園から降園までを責任をもって保育する	大原	本日の保育についての反省会 翌日の準備・環境設定・教材研究について 指導案の書き方
2月25日(木)	交通安全指導	一日実習 ・担任と一緒に保育の補助をする	木村	本日の保育についての反省会 翌日の準備・環境設定・教材研究について 指導案の書き方
2月26日(金)	おわかれ会 閉講式	一日実習 ・担任と一緒に保育の補助をする	神永	保健に関する講義 本日の保育についての反省会 履修簿のまとめと提出について

本実証例から体験実習の必要性が非常に重要であることが立証できた。ここで一人の実習生に注目し、その変容をたどってみる。

H実習生は幼稚園教師になりたいという夢をもち、幼稚園実習の希望を出した学生である。実習をととても楽しみにしていたようで体験実習にも張り切って取り組んでいた。しかし、何度かかわっていくにつれて自分が思っていた幼児像と目の前にいる幼児との違いに気付くようになる。初めは楽しみにしていたはずの実習がだんだん苦痛になり、どう指導していいのかわからず、不安ばかりが大きく膨らんでいった。実習が始まって不安は消えることなく、一歩引いて見ていることが多く、ますます幼児の気持ちを読み取ることができず、自分は向いていないのではないかと落ち込んだ時期もあったようである。以下は、H実習生の実習後の反省・感想の抜粋である。

### Ⅲ-1 一教育実習を終えて一 (観察実習より)

#### ア 教育実習についての反省

実習の前に講話としていろいろなことを学びました。教師は子どもがどう動くか常に考え、先のことを考えて行動する。一つのことのにめり込まない、等ということが教師に必要なことです。しかし、頭では理解していても実際に32人の子どもの目の前に立つと、先生のおっしゃった一つ一つに難しさを感じました。一人一人のことを考えると、この子には何ていったらよいのか、見守っていた方がよいのか、とても迷ってしまいました。結局あまり声をかけられなかったり、どうやってその子にわかってもらえるように言ったらよいのかわからず、中途半端な形になってしまったことがよくあったと思いました。2月の実習では、もっと一人一人の気持ちを聞き入れ、どうしてそう思うのか、聞いていきたいです。そして、その中で認め合ったりという形ができればいいと思いました。この反省点を生かして頑張りたいと思います。

#### イ 教育実習の感想

3日間という短い間でしたが、4歳児はどんな遊びをするのか、どんな行動をとるのかだいたい把握することができたと思います。今まで、大洗遠足と宿泊保育をしてきて年長さんと一緒だったので年中さんはとても小さく思えました。たった1年しか変わらないのにとても大きな差に見えました。違う見方をするとこの1年でとても成長していくのだと思います。この3日間で私が感じたことは幼稚園の先生をととても甘く見ていたということです。先生方は一人一人を見て、一人一人に合った言い方や行動をしていました。そして、子どもだけではなく親とのコミュニケーションを大切にしていたと思います。私はこの3日間で子どもたちの立場になって考えたり、一人一人納得するまで話することに戸惑うことばかりだったと思います。そのほかに子どもたちが帰った後も、子どもたちがより安全に、楽しく運動会(写真3)ができるようにいろいろな配慮をし準備していたと思います。子どもが怪我をしないように遊具を動かしたりコードをガムテープで止めたり、ダンスで使う花を毎日きれいに開き直したり先生方の子どもへの思いというものがとても伝わりました。短い期間でしたが、とても勉強になったことばかりでした。2月の実習までにしっかり体力をつけパワー全開で子どもたちに向かいたいと思います。いろいろご指導いただきありがとうございます。



写真3 運動会への参加の様子

以上のように観察し、記録を取るという実習の中で体験実習でかかわった年長児との違いや、幼

幼稚園の教師を甘く見ていたこと、一人一人に応じた指導の大切さ、今まで見えなかった教師としての細やかな配慮等に気付くことができたようだ。しかし、頭では理解していても実際に幼児の前に立つと、見守った方がよいのか言葉をかけるべきなのか等迷いが生じ、中途半端なかかわりになってしまったり、判断の難しさを感じとったように思える。

### Ⅲ-2 -教育実習を終えて- (本実習より)

#### ア 教育実習についての反省

初めのころは、子どもの遊びを見ているだけだったり、何かトラブルが起きてどう対処していいのかわからず中途半端にしてしまうことが多かったと思います。子どもの遊びを見ていると一見みんなが楽しく遊んでいるように見えますが、実際自分もその遊びに入ることによって人間関係や子どもの気持ちというものがわかってきました。さらに子どもと深くかかわると、子ども一人一人の育ちというものがだんだん見えてきて、その子に応じた指導ということを肌で感じるすることができました。



写真4 本実習での指導の様子

一斉活動においては、やはり初めのころは子どもがどう反応するか予想することができず、予期せぬことが次々と起こり自分自身も戸惑ってしまったり、投げ出したい気持ちになってしまうこともありました。一斉活動は、いかにみんなを惹きつけるようにすることがとても大変だったと思います。この2週間という短い期間で本当に多くのことを学ぶことができたと思います。

今後また幼稚園に行く機会があったら、この附属幼稚園で学んだことを生かして頑張っていきたいと思います。写真4は本実習での指導の様子を示す。

#### イ 教育実習の感想

幼稚園実習の希望を出したころは、自分は幼稚園の先生になりたいという気持ちもあり、この実習をととても楽しみにしていました。しかし、遠足や宿泊保育、運動会と子どもとかがわっていくうちにどうやって接したらいいのか、どう指導したらいいのか不安ばかりが大きくなってしまいました。そして自分は向いていないんじゃないかと思い始めました。しかし、先生のアドバイスや子どもとのかかわり方、指導を見ているうちに自分もこういう時はどうしたらいいのか、だんだん理解することができました。子どもと一緒にどっぷりつかることによって、一人一人の育ちに合った指導をすることができるようになったと思います。この実習をすることができてよかったと思いました。これから先、またいろいろなボランティアに参加してもっと子どもたちにかかわっていききたいと思いました。

観察実習では、幼児の姿や行動を外側から観察し記録するという作業を通して、表面に表れたことから幼児の内面を理解し把握してきている。また実習についての反省文や感想文から、観察実習で理解したことが本実習では自分が保育者という立場に立つという経験を通して、初めは見ていただけだったり、トラブルが起きてはどう対処していいかわからず、中途半端なかかわりをしていたのが、「実際に自分も遊びの中に入ることによって人間関係や子どもの気持ちも分かってきた」とあるように、距離を縮めて深くかかわることで幼児の気持ちを理解し、心に添った援助ができるようになってきたことがわかる。「戸惑ったり、投げ出したい」といった不安な気持ちも本実習を終えるころには「こういう時にはどうしたらいいのかだんだん理解することができ、子どもと一緒に遊びにどっぷりつかることによって一人一人の育ちに合った指導をすることができた」というように、自信のようなものも感じとれるようになり、実習を通してこの学生がいかに成長してきたかが理解できる。写真5は教育実習本実習での「さよならの会」の様子を示す。



写真5 「さよならの会」での様子

#### Ⅳ 教育実習への成果

本幼稚園では、平成10年度より教育実習の事前指導の一部として、フレンドシップ事業を利用して、遠足、宿泊保育等を体験実習として位置付け、さらに運動会予行演習・運動会等を観察実習として取り入れ試行してきた。そして定量的に示すことは難しいが一定の成果が得られたと考えている。初めは、幼稚園実習を受ける学生が、幼稚園教師として専門的な知識をどれだけ勉強してくるのだろうか。また、指導する側としてどこまでを要求すればいいのだろうか、疑問をもちながら開始した幼稚園実習であった。当初は大学側と幼稚園側の連携も密ではなく、手探り状態で始めただけに、果たして十分といえる指導ができていたのか不安だった。実習を受ける側の学生にとっても5回の事前指導と観察実習、本実習を行うという短い期間の中で不安を抱えて臨んでいたのではないかと思われる。

今年度新たにフレンドシップ事業の中で体験実習として宿泊保育以外に遠足への参加や観察実習として運動会等を組み込むことで、実習以前に幼児と直接触れ合い、共に学び合う場を経験する機会を設けたことは、学生自身にとってもより深い幼児理解、幼稚園教育の理解へとつながったのではないかと確信する。何より嬉しいことは、「反省会の中での話の一つ一つが心に響きました。特に子どもの心に近付き、させる、やらせるではなく共に作り上げていくといった教育観や一人一人の幼児についての深い理解に驚き感心すると共に、私も先生のように子どもの心に近付き子どものことを深く理解できる教師になりたいと思いました。実習では子どもと一緒に遊び、とても楽しい毎日を過ごすことができ、保育っていいなと実感することができました。そして改めて保育者を目指して頑張ろうと思うようになりました。」という手紙が届いたこと等は成果を裏付けるものとなった。

今後は、幼児教育者を志す学生が増えてきていることから、さらにボランティアで協力する場を増やし、門戸を広げていくことを考えていきたい。そして、よりよい教育実習のあり方について大学との連携を密にしながら更なる研究を重ねて一層発展させていきたい。

## 謝 辞

本研究を遂行するにあたり、茨城大学教育学部附属教育実践センター戸塚茂則助教授には、フレンドシップ事業の教育実習の事前指導に対する位置付け等について検討いただきました。ここに記し、感謝の意を表します。

また、本研究の一部は茨城大学学長裁量経費、代表菊地龍三郎『附属学校園と連携した新しい教員養成カリキュラムの開発』によってなされました。この点に関して、教育学部学校教育講座新井孝喜助教授に感謝いたします。

## 注

- 1) 茨城大学教育学部附属教育実践センター『平成9年度フレンドシップ事業 ー実践的指導力の基礎の育成ー, 実践資料集』(茨城大学教育学部1997), p.1.
- 2) 神永直美・大原いづみ・山路純子・吉澤勲・戸塚茂則「フレンドシップ事業の幼稚園教育への試行的応用」『茨城大学教育実践研究』17号(1998), pp.175-186.